NFC 京橋映画小劇場 小ホール
KYOBASHI-ZA No.25

The 60th Anniversary of The National Museum of Modern Art, Tokyo
Film in the Museum: Screenings before National Film Center

東京国立近代美術館60周年記念

美術館と映画

フィルムセンター以前の上映事業

2012年 11月9日金–12月23日日祝

※金曜日・土曜日・日曜日のみの上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール（地下1階）

開映後の入場はできません。

定員＝151名（各回入替制）
発券＝地下1階受付
料金＝一般500円／高校・大学生・シニア300円／小・中学生100円／障害者（付添者は原則1名まで），キャンパスメンバーズは無料

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い，定員に達し次第締切ります。
- 学生，シニア（65歳以上），障害者，キャンパスメンバーズの方は，証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。

1952-2012
60th Anniversary

東京国立近代美術館60周年を記念して，誕生日当日のご入場は無料となります（証明できるものをご提示ください）。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
The National Museum of Modern Art, Tokyo

小ホール上映作品

東京国立近代美術館60周年記念
美術館と映画：フィルムセンター以前の上映事業
The 60th Anniversary of
The National Museum of Modern Art, Tokyo
Film in the Museum: Screenings before National Film Center

国内では初の国立美術館となる「国立近代美術館」（現・東京国立近代美術館）が開館したのは1952年12月1日のこと。それはまた同時に，美術館の映画事業「フィルム・ライブラリー」（フィルムセンターの前身）が上映活動を開始した日にもあたります。上映会の会場には，当時京橋にあった美術館（1970年に竹橋に移転）の建物（旧・日活本社）に付属する80席の映写室が用いられ，開館記念として3本の美術映画――『桃山美術』『ピカソ訪問』『フランクリン・ワトキンズ』が，12月28日までの4週間にわたり上映されました。

以後，美術映画の他にも文化・記録映画，アニメーション映画などの短篇映画を幅広く紹介する「月例映写会」が継続的に開かれる一方，翌1953年には，再上映の機会が稀であった映画史上の古典作品を上映する「特別鑑賞会」が始まり，間もなく1週間のうち月例映写会を4日間，特別鑑賞会を2日間の割合で，各日1回の上映を行うスタイルが定着するようになります。

映画の渡来から55年目を迎え，1958年には国内の映画人口が11億人を超えるピークに達しようとしていた当時，古典映画の上映はもちろん，その前提となるフィルムの所在を明らかにすることも困難であった状況下で，国立のフィルム・アーカイブ／シネマテークはその第一歩を踏み出したのです。

この特集では，“フィルム・ライブラリー時代”（1952–1969年）の上映プログラムを再現しながら，国立美術館における映画の上映と，フィルムセンターの原点を振り返ります。

電力事情など今後の状況により急遽スケジュールが変更される可能性もございます。最新の情報は，当館ホームページ又はハローダイヤルにてご確認願います。

■㊐＝監督　㊗＝原作・原案　㊚＝脚本・脚色　㊟＝原画　㊞＝撮影　㊝＝美術　㊜＝音楽　㊥＝出演　㊫＝解説・ナレーション
■上映作品のプリントやバージョンは必ずしもフィルム・ライブラリー時代の上映に用いられたものと同一ではありません。
■特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
■記載した上映分数は，当日のものと多少異なることがあります。

●《京橋映画小劇場》とは

平成18（2006）年度よりフィルムセンターは，それまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを，《京橋映画小劇場》（KYOBASHI-ZA）の名のもと，年に数回，フィルムセンターの主催上映企画にも利用し，さらなる上映活動の拡充を図っています。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に，外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ，多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども，皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

1　11／30㊎1:00pm　12／23㊐・㊗11:00am

「月例映写会」の中心を占めていた美術映画のプログラム。今では美術映画の古典となっているこれらの作品も，当時はその年の新作映画を紹介したものであった。『桃山美術』は1952年12月の開館記念プログラムでも上映された1本。

桃山美術（18分・16mm・白黒）
'52（三井芸術プロ）㊐水木荘也㊚近藤市太郎㊞川村清衛㊜松平頼則

上代彫刻（18分・16mm・白黒）
'52（三井芸術プロ）㊐水木荘也㊚千澤禎治㊞永塚一栄㊜早坂文雄㊫三神茂

歌麿（14分・35mm・カラー）
'52（秀映社）㊞山田耕造

北齋（23分・35mm・白黒）
'53（青年ぷろ）㊐勅使河原宏㊚吉川良㊞浦島進，長谷川博美，瀬川順一㊜清瀬保二㊫加藤嘉

2　11／17㊏11:00am　12／9㊐2:00pm

ジークフリート
（80分・35mm・白黒・サウンド版）
SIEGFRIEDS TOD
ワーグナーのオペラ「ニーベルンゲンの指輪」にも着想を与えた13世紀初期の叙事詩などに基づくフリッツ・ラング「ニーベルンゲン」2部作の第1部。1953年の2月から4月にかけて「特別鑑賞会」の第1回作品として上映された。
'24（ドイツ）㊐フリッツ・ラング㊚テア・フォン・ハルボウ㊞カール・ホフマン，ギュンター・リッタウ，ヴァルター・ルットマン㊝オットー・フンテ，エーリッヒ・ケッテルフート，カール・フォルブレヒト㊥パウル・リヒター，マルガレーテ・シェーン，テオドール・ロース，ハンス・アダルベルト・フォン・シュレトウ，ゲオルク・ヨーン，ハナ・ラルフ

3　11／25㊐2:00pm　12／15㊏11:00am

美術映画の上映からスタートした「月例映写会」は，その後文化・記録映画など様々な短篇作品を紹介するようになり，1953年4月から5月にかけては漫画映画（アニメーション）の最初の特集が開催された。『蜘蛛の絲』『すて猫トラちゃん』『小人とあお虫』はそのときのプログラム（計8本）でも上映された作品。

蜻の骨（9分・24fps・35mm・無声・白黒）
'27（横浜シネマ商会）㊟村田安司㊗㊚青地忠三㊞上野行清

蜘蛛の絲（10分・35mm・白黒）
'46（三幸スタジオ）㊐㊟大藤信郎㊗芥川竜之介

すて猫トラちゃん（21分・35mm・白黒）
'47（東宝教育映画＝日本動画）㊐政岡憲三㊚佐々木富美男㊜服部正

小人とあお虫（16分・16mm・白黒）
'50（東宝教育映画＝日本動画）㊐古沢秀雄㊗肥塚あきら㊚松崎與志人㊞東理仁朗㊜坂本良隆

こねこのスタジオ（16分・35mm・カラー）
'59（東映動画）㊐㊟森やすじ㊞石川光明㊜山田榮一㊥中村メイコ

4　11／17㊏2:00pm　12／7㊎1:00pm

アッシャー家の末裔
（57分・20fps・35mm・無声・染色）
LA CHUTE DE LA MAISON USHER
エドガー・アラン・ポーによる複数の小説を下敷きに，スローモーションや多重露光，移動撮影など「フォトジェニック」な技法を駆使して映画の詩的表現を極めたジャン・エプステインの代表作。第3回「特別鑑賞会」（1953年6–7月）で「小宮登美次郎コレクション」の中の1本が上映された。
'28（フランス）㊐㊚ジャン・エプステイン㊗エドガー・アラン・ポー㊞ジョルジュ・リュカス，ジャン・リュカス㊝ピエール・ケフェル㊥ジャン・ドビュクール，マルグリート・ガンス，シャルル・ラミー

5　11／24㊏2:00pm　12／21㊎1:00pm

新たな表現領域として戦中に開花した文化・記録映画のプログラム。望遠レンズを駆使して鳥や小動物の生態を記録した下村兼史，顕微鏡撮影で雪や霜の気象学的過程を克明に捉えた吉野馨治，身近な現象を観察して科学映画の基礎を築いた太田仁吉は，いずれもこの分野のパイオニアである。

或日の干潟（18分・35mm・白黒）
'40（理研科学映画）㊐下村兼史

霜の花（19分・35mm・白黒）
'48（日本映画社）㊞吉野馨治，吉田六郎，小口禎三㊜伊福部昭㊫徳川夢声

いねの一生（21分・35mm・白黒）
'50（日本映画社）㊐㊚太田仁吉，樺島清一㊞鈴木喜代治，後藤義彦㊜鈴木林藏

6　11／16㊎5:00pm　12／9㊐11:00am

美と力への道
（104分・22fps・16mm・無声・白黒・英語版・日本語字幕無し）
WEGE ZU KRAFT UND SCHONHEIT
古代ギリシャから現代にいたる運動競技や体操，舞踊の紹介を通して人間の肉体的な美と力を追究した，ウーファ社の「文化映画」初期の代表作。第5回「特別鑑賞会」（1953年9月）で，長く文部省に保管されていたプリントが上映された。
'25（ドイツ）㊐ヴィルヘルム・プラーゲル㊚ニコラウス・カウフマン㊞フリードリッヒ・ワイマン，サイゲン・ヒルシュ，フリードリッヒ・ボールマン

7　11／10㊏11:00am　12／7㊎5:00pm

寒椿（86分・16fps・35mm・無声・白黒）
小島孤舟の小説を映画化した，井上正夫のアメリカからの帰朝第1作。当時の新派映画の中では革新的な作品として高く評価された。「覆面令嬢」のクレジットで水谷八重子が映画初出演を果たした作品でもある。第6回「特別鑑賞会」（1953年10–11月）で上映。
'21（国活角筈）㊐畑中蓼坡㊗小島孤舟㊞酒井健三㊝齋藤五百枝㊥井上正夫，覆面令嬢，吉田豊作，高勢實，林千歳，水島亮太郎

8　11／11㊐11:00am　12／14㊎5:00pm

朝から夜中まで
（69分・18fps・35mm・無声・白黒）
VON MORGENS BIS MITTERNACHTS
銀行の出納係が大金を着服して身を滅ぼすまでの軌跡を，『カリガリ博士』以上に徹底したスタイルで描いた表現主義映画。第7回「特別鑑賞会」（1953年12月–54年1月）で上映。当時は日本で発見された無字幕版が世界的にも唯一の現存する素材であった（本特集では1993年にミュンヘン映画博物館が字幕を加えた復元版を上映）。
'21（ドイツ）㊐㊚カールハインツ・マルティン㊗ゲオルク・カイザー㊚ヘルバート・ユットケ㊞カール・ホフマン㊝ロベルト・ネッパッハ㊥エルンスト・ドイッチュ，エルナ・モレナ，ローマ・バーン，アドルフ・エドガー・リホ

9　11／30㊎5:00pm　12／22㊏11:00am

戦後の新作（当時）短篇映画を紹介するプログラム。終戦とともに日本映画社など統制映画会社の時代を終えた文化・記録映画は，1950年代に再び専門プロダクションの設立が相次ぎ，経済成長を背景に新たな興隆を迎えることになる。フィルム・ライブラリーの誕生は，この新たな映像時代の到来とも重なるものであった。

日本百科映画大系　眞空の世界
（11分・16mm・白黒）
'53（日映科学映画製作所）㊐㊚中村麟子㊞広木正幹

文部省学術映画シリーズ5　アイヌの川漁
（23分・16mm・白黒）
'53（岩波映画製作所）（製作スタッフ）渥美輝男，山村圭二郎，吉田六郎，桜井善一郎

文部省学術映画シリーズ6　ニホンザルの自然社会
（20分・35mm・白黒）
'54（三井芸術プロ）㊐矢部正男㊚太田仁吉㊞鈴木喜代治，坂崎武彦，鈴木武夫㊜黛敏郎

10 11／10(土)2:00pm　12／14(金)1:00pm

路上の靈魂
(112分・18fps・35mm・無声・白黒)

「純映画劇運動」の流れをくむ松竹キネマ研究所の第1作。父の逆鱗に触れて帰る場所を失った息子と，その一方で思わぬ親切を受け更正を誓う出獄者たちの対照的な運命が，クロス・カッティングの手法で描かれる。スタッフの一人であった牛原虚彦が現存する素材を再編集して，第10回「特別鑑賞会」(1954年5-6月)での上映が実現した。

'21(松竹キネマ研究所)㊐㊥村田實㊚ウィルヘルム・シュミット=ボン，マクシム・ゴーリキー㊞㊥牛原虚彦㊟水谷文次郎，小田濱太郎㊛溝口三郎㊥小山内薫，英百合子，伊達龍子，東郷是也，久松三岐子，澤村春子

11 11／9(金)1:00pm　12／1(土)2:00pm

日露戦争に際しイギリスのアーバン社がカメラマンを派遣して撮影した『旅順開城と乃木將軍』と，明治の映画商社・Mパテー商会(後に日活に統合)が白瀬矗中尉の南極探検にカメラマンを派遣した『日本南極探検』。Mパテー商会主・梅屋庄吉が再興したMカシー商会の新派映画『先代萩』と，日本映画最古のスター・尾上松之助主演の忍術映画『豪傑児雷也』。最初の3本は第11回「特別鑑賞会」(1954年7-9月)で上映。フィルム・ライブラリーの発足当時見ることのできた初期映画を知るうえで興味深い。

旅順開城と乃木將軍
(20分・16fps・16mm・無声・白黒)

'04(イギリス)㊟ローゼンタール

日本南極探検
(20分・15fps・35mm・無声・白黒)

'12(Mパテー商会)㊟田泉保直

先代萩(6分・16fps・35mm・無声・白黒)

'15(Mカシー商会)㊥中村歌扇

豪傑児雷也(21分・16fps・35mm・無声・白黒)

'21(日活大将軍)㊐牧野省三㊥尾上松之助，片岡松燕，片岡長正，大谷鬼若，市川寿美之丞

12 11／25(日)11:00am　12／22(土)2:00pm

空気の無くなる日(51分・35mm・白黒)

ハレー彗星の接近で地球の空気が無くなるという噂から，村中が大騒ぎになる。岩倉政治による児童文学の映画化で，現在では特撮技術を駆使したSF映画の先駆としても再評価されている。「世界の児童画」展の開催にあわせて1954年9月の「月例映写会」で上映。

'49(日本映画社)㊐伊東壽惠男㊚岩倉政治㊟大小島嘉一㊛田邊達㊩武田俊一㊥深見泰三，花沢徳衛，河崎堅男，平山均，佐々木浩一，河合健児，大町文夫，望月伸光

13 11／18(日)11:00am　12／8(土)2:00pm

人生案内(94分・35mm・白黒)
ПУТЕВКА В ЖИЗНЬ

戦争や革命で親を失った孤児たちの自立を願い，作業場づくりに取り組む青年。子どもの自立の補助や社会的障害をテーマにしたソ連初のトーキーによる長篇劇映画。第12回「特別鑑賞会」(1954年12月-55年1月)で上映。

'31(ソ連)㊐㊞ニコライ・エック㊞アレクサンドル・ストルペル，レギナ・ヤヌシュケーヴィチ㊟ワシーリー・プローニン㊛イワン・ステパーノフ，A・エヴメネンコ㊩ヤーコフ・ストリャル㊥ニコライ・バターロフ，イワン・クィルラ，ミハイル・ジャーロフ，ワシリー・カチャーロフ，ミハイル・ジャゴファロフ，アレクサンドル・ノヴィコフ，マリヤ・アントロポワ

14 11／16(金)1:00pm　12／2(日)2:00pm

極北の怪異[極北のナヌーク]
(63分・22fps・16mm・無声・白黒・日本語字幕無し)
NANOOK OF THE NORTH

カナダ北部の過酷な自然の中に暮らす狩猟民族の生活をフィルムに収め，ドキュメンタリー映画の先駆となったロバート・J・フラハティの第1作。第16回「特別鑑賞会」(1955年6-7月)で上映。

'22(アメリカ)㊐ロバート・J・フラハティ

15 11／24(土)11:00am　12／16(日)2:00pm

二人妻 妻よ薔薇のやうに
(74分・35mm・白黒)

歌人の妻と，その妻のもとを逃げ出して愛人宅に住みながら砂金掘りに熱中する男。そしてその男に献身的に尽くす愛人。三者三様の立場を一人娘の視点から描き，キネマ旬報ベストテンの第1位に選ばれた。第21回「特別鑑賞会」(1956年5-6月)で上映。

'35(P.C.L.)㊐㊞成瀬巳喜男㊚中野實㊟鈴木博㊛久保一雄㊩伊藤昇㊥千葉早智子，英百合子，伊藤智子，堀越節子，細川ちか子，丸山定夫，大川平八郎，伊東薫，藤原釜足

16 11／23(金・祝)11:00am　12／15(土)2:00pm

外人部隊(104分・35mm・白黒)
LE GRAND JEU

愛人のために人生に失敗した男が，虚無の心を胸に地獄の外人部隊に身を投じるが，そこで待っていたもう一つの恋が男をさらなる虚無へと導いてゆく…。ジャック・フェデーのトーキー第1作にして，1930年代フランス映画の黄金時代を代表する1本。第23回「特別鑑賞会」(1956年9月)で上映。

'33(フランス)㊐㊞ジャック・フェデー㊞シャルル・スパーク㊟ハリー・ストラドリング㊛ラザール・メールソン㊩ハンス・アイスラー㊥マリー・ベル，ピエール・リシャール=ヴィルム，シャルル・ヴァネル，フランソワーズ・ロゼー

17 11／18(日)2:00pm　12／21(金)5:00pm

マダムと女房(56分・35mm・白黒)

土橋武夫・晴夫兄弟が開発した「土橋式」国産トーキーの記念すべき第1作。仕事への集中を妨げられ騒がしい隣家を訪ねた劇作家が，美人のマダムにたやすく丸め込まれるというドタバタ喜劇。第25回「特別鑑賞会」(1957年2-3月)で上映。

'31(松竹蒲田)㊐五所平之助㊚㊞北村小松㊟水谷至宏㊛脇田世根一㊩高階哲夫，島田晴誉㊥渡辺篤，田中絹代，市村美津子，伊達里子，横尾泥海男，吉谷久雄，月田一郎，日守新一，小林十九二，関時男，坂本武，井上雪子

18 11／9(金)5:00pm　12／2(日)11:00am

カリガリ博士
(52分・20fps・35mm・無声・白黒・英語版・日本語字幕無し)
DAS KABINETT DES DR. CALIGARI

催眠術を用いるカリガリ博士の犯罪を実験的なライティング，セット・デザインで描き，ドイツ映画の芸術性を一躍世界に知らしめた表現主義映画の代表作。第29回「特別鑑賞会」(1957年9月)で上映。

'20(ドイツ)㊐ロベルト・ヴィーネ㊞カール・マイヤー，ハンス・ヤノヴィッツ㊟ヴィリー・ハマイスター㊛ヴァルター・レーリッヒ，ヴァルター・ライマン，ヘルマン・ヴァルム㊥ヴェルナー・クラウス，コンラート・ファイト，リル・ダゴファー

19 11／23(金・祝)2:00pm　12／16(日)11:00am

ピグマリオン(86分・35mm・白黒)
PYGMALION

言語学者が親友と賭けをして貧しい花売娘に正しい英語と礼儀作法を教えようとするが…。ジョージ・バーナード・ショーによる同名戯曲の映画化。オードリー・ヘップバーン主演で映画化(1964)されたヒット・ミュージカル「マイ・フェア・レディ」の原形となった。第31回「特別鑑賞会」(1958年5-6月)で上映。東和映画が所蔵する戦前作品だったが日本公開はこれが初となった。

'38(イギリス)㊐アンソニー・アスクィス㊐㊥レスリー・ハワード㊚ジョージ・バーナード・ショー㊞W・P・リプスカム，セシル・ルイス，イアン・ダルリンプル㊟ハリー・ストラドリング㊛ローレンス・アーヴィング㊩アルテュール・オネゲル㊥ウェンディ・ヒラー，ウィルフリド・ローソン，マリー・ロー

上代彫刻

20 11／11(日)2:00pm　12／8(土)11:00am

フランス前衛映画のプログラム。著名監督たちによる初期の実験と，A・アルトー，F・ピカビア，F・レジェなど20世紀を代表する芸術家たちの映画への関与を見ることができる。『チューブ博士の狂気』『幕間』『バレエ・メカニック』は，牛原虚彦，飯島正の講演付きで開催された1961年の「フランス無声映画名作鑑賞会」で上映。フランス映画173本を集めてその後の特集上映の原点となる「日仏交換映画祭・フランス映画の回顧上映」が開催されるのはその翌年であった。

チューブ博士の狂気
(14分・18fps・35mm・無声・白黒)
LA FOLIE DU DOCTEUR TUBE

'15(フランス)㊐アベル・ガンス㊟レオンス=アンリ・ビュレル㊥アルベール・デュードネ

三面記事(23分・18fps・35mm・無声・白黒)
FAIT-DIVERS

'23(フランス)㊐クロード・オータン=ララ㊟アメデ・モラン㊥ポール・バルテ，マダム・ララ，アントナン・アルトー

幕間(19分・18fps・35mm・無声・白黒)
ENTR'ACTE

'24(フランス)㊐ルネ・クレール㊞㊛㊥フランシス・ピカビア㊟ジミー・ベルリエ㊥ジャン・ボルラン，マン・レイ，マルセル・デュシャン，インゲ・フリース，ジョルジュ・オーリック，エリック・サティ

バレエ・メカニック
(17分・16fps・35mm・無声・白黒)
BALLET MECHANIQUE

'24(フランス)㊐フェルナン・レジェ㊟ダドリー・マーフィ

21 12／1(土)11:00am　12／23(日・祝)2:00pm

「月例映写会」では，カナダのN・マクラレンをはじめ，個性的な作家を生んだイギリス，ポーランドなど海外のアニメーション映画の紹介も積極的に行われた。その蓄積は，フィルムセンター開館翌年の特集上映「アニメーション映画の回顧」(1971年)として結実する。

隣人(8分・16mm・カラー)
NEIGHBOURS

'52(カナダ)㊐ノーマン・マクラレン

線と色の即興詩(5分・16mm・カラー)
BLINKITY BLANK

'55(カナダ)㊐ノーマン・マクラレン

算数あそび(9分・16mm・カラー)
RYTHMETIC

'56(カナダ)㊐ノーマン・マクラレン，イヴリン・ランバート

つかの間の組曲(5分・16mm・カラー)
SHORT AND SUITE

'59(カナダ)㊐ノーマン・マクラレン，イヴリン・ランバート

珍説 世界映画史の巻
(8分・35mm・カラー・日本語版)
THE HISTORY OF THE CINEMA

'56(イギリス)㊐ジョン・ハラス㊟フランキー堺

珍説 酒は呑むべしの巻
(10分・35mm・カラー・日本語版)
TO YOUR HEALTH

'56(イギリス)㊐フィリップ・スタップ㊟フランキー堺

猫とネズミ(9分・35mm・カラー)
MYSZKA I KOTEK

'58(ポーランド)㊐ヴァディスラフ・ネフレベッキ

チューブ博士の狂気

	金曜日	土曜日	日曜日
11月	1:00pm 11 旅順開城と乃木將軍 他 (計67分)	11:00am 7 寒椿 (86分)	11:00am 8 朝から夜中まで (69分)
	5:00pm 18 カリガリ博士 (52分)	2:00pm 10 路上の靈魂 (112分)	2:00pm 20 チューブ博士の狂気 他 (計73分)
	1:00pm 14 極北の怪異 (63分)	11:00am 2 ジークフリート (80分)	11:00am 13 人生案内 (94分)
	5:00pm 6 美と力への道 (104分)	2:00pm 4 アッシャー家の末裔 (57分)	2:00pm 17 マダムと女房 (56分)
	11:00am 16 外人部隊 (104分)	11:00am 15 二人妻 妻よ薔薇のやうに (74分)	11:00am 12 空気の無くなる日 (51分)
	2:00pm 19 ピグマリオン (86分)	2:00pm 5 或日の干潟 他 (計58分)	2:00pm 3 蛸の骨 他 (計72分)
	1:00pm 1 桃山美術 他 (計73分)	11:00am 21 隣人 他 (計54分)	11:00am 18 カリガリ博士 (52分)
	5:00pm 9 眞空の世界 他 (計54分)	2:00pm 11 旅順開城と乃木將軍 他 (計67分)	2:00pm 14 極北の怪異 (63分)
12月	1:00pm 4 アッシャー家の末裔 (57分)	11:00am 20 チューブ博士の狂気 他 (計73分)	11:00am 6 美と力への道 (104分)
	5:00pm 7 寒椿 (86分)	2:00pm 13 人生案内 (94分)	2:00pm 2 ジークフリート (80分)
	1:00pm 10 路上の靈魂 (112分)	11:00am 3 蛸の骨 他 (計72分)	11:00am 19 ピグマリオン (86分)
	5:00pm 8 朝から夜中まで (69分)	2:00pm 16 外人部隊 (104分)	2:00pm 15 二人妻 妻よ薔薇のやうに (74分)
	1:00pm 5 或日の干潟 他 (計58分)	11:00am 9 眞空の世界 他 (計54分)	11:00am 1 桃山美術 他 (計73分)
	5:00pm 17 マダムと女房 (56分)	2:00pm 12 空気の無くなる日 (51分)	2:00pm 21 隣人 他 (計54分)

大ホール(2階)

日活映画の100年 日本映画の100年

Nikkatsu 100: A Century of Japanese Cinema [Screening]

2012年11月6日㈫—12月27日㈭
2013年1月8日㈫—2月3日㈰

赤い波止場

草創期の向島撮影所の新派や大将軍撮影所の旧派映画、映画独自の表現を開花させた無声映画の名作から、戦前・戦中に一時代を画した多摩川撮影所の文芸映画、そして戦後の黄金時代を彩ったプログラム・ピクチャー、現在の日本映画を支える若い才能を輩出したロマンポルノ路線まで、様々な時代・ジャンル・監督・スターの作品を紹介しながら、創立100年を迎えた日活の巨大な足跡をたどります。

＊詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧下さい。

次回予告 大ホール(2階)

よみがえる日本映画 vol.5[日活篇]
—映画保存のための特別事業費による

The Little Known Japanese Cinema vol.5 — NFC's Newly Acquired Collection from Major Film Studios

2013年2月5日㈫—3月17日㈰

平成21年度補正予算の映画保存のための特別事業費により新たに収集したコレクションを紹介する特集。原版素材の整備によりフィルムでの再上映が可能となった日本映画の中から日活作品を特集します。

＊詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧下さい。

展示室(7階)

[企画展]

日活映画の100年 日本映画の100年

Nikkatsu 100: A Century of Japanese Cinema

"目玉の松ちゃん", 裕次郎から現代まで
—日本映画史を形作った波乱万丈の一世紀

8月14日㈫—12月23日㈰㈷

＊月曜日および9月10日(月)—9月17日(月), 10月29日(月)—11月5日(月)は休室

日本映画最古の"メジャー・プロダクション"日活の創立100年を記念して, 新派無声映画から時代劇, リアリズム, "日活アクション", ロマンポルノそして現代へとドラマティックな変容を経てきた同社の足跡をたどります。一世紀の歴史をたどるギャラリー・トークも開催されます。

・詳細は当該チラシまたはフィルムセンターのホームページをご覧ください。

『五人の斥候兵』(1938年)
ポスター

和田浩治・赤木圭一郎・
小林旭・石原裕次郎
1961年日活カレンダーより

[常設展] 企画展に併設

NFCコレクションでみる 日本映画の歴史

Nihon Eiga: The History of Japanese Film From the NFC Non-film Collection

映画の渡来した19世紀末から発展を続け, 二つの黄金時代を経験した日本映画の豊かな歴史を, 長年フィルムセンターが収集してきた多彩なコレクション(ポスター・スチル写真・雑誌・製作資料・業界資料・キャメラなど機械類・映画人の遺品・映像など)によってたどります。日本映画史の新しい学びの場として, 小学生から大人まで幅広い世代の方々を対象とする内容になっています。

(Captions in Japanese and English)

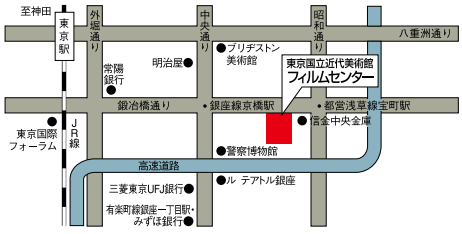
開室時間=午前11時—午後6時30分
(入場は午後6時まで)
料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円) ／大学生・シニア70円(40円) ／高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで), MOMATパスポートをお持ちの方, キャンパスメンバーズは無料

＊( )内は20名以上の団体料金です。
＊学生, シニア(65歳以上), 障害者, キャンパスメンバーズの方は, 証明できるものをご提示下さい。
＊フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り, 半券のご提示により団体料金が適用されます。

研究員による常設展ギャラリートーク
毎月第一土曜日12時より(休室の場合は第二土曜日)
開催日:11月10日, 12月1日, 1月12日

2階受付では, **「NFCニューズレター」(隔月刊)**を販売しています。これは, フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報, 上映番組の解説, 予告等はもちろんのこと, 世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介, 映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。

東京国立近代美術館フィルムセンターは, 国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として, また, 歴史資料としての映画フィルムを, 破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。



フィルムセンター 〒104-0031東京都中央区京橋3-7-6
▼交通:
東京メトロ銀座線京橋駅下車, 出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車, 出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車, 出口7より徒歩5分
JR東京駅下車, 八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ:ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ:
http://www.momat.go.jp/
NFC携帯電話ホームページ:
http://www.momat.go.jp/nfc/k/

表紙:朝から夜中まで